

顧問一年生

奈良市立富雄中学校・教諭

大西 佐知

(平成18年3月教育学部卒)

バスケットボール…？

初任者として本校に赴任し、もうすぐ一年になります。学校では、授業や部活指導、成績等の事務処理、そして教材研究など、日々すべきことがたくさんあります。そんな毎日の中で、私にとっては部活指導が最も大きな課題です。

四月に女子バスケットボール部を任されました。バスケットは体育の授業で教えてもらったことがあるだけで、ルールもよくわかりません。知らないスポーツの指導なんて、全く自信がありません。しかし、体育館では部員たちが待っています。顧問がいないと、彼女たちは部活をすることができません。

顧問をすることには不安でいっぱいでしたが、今日から勉強して、彼女たちからも吸収しながら、顧問として部を引っ張っていきかなないと決意しました。しかし、決意はしたものの、わからないことだらけです。だから、バスケット雑誌や教則本、DVDなどを見て勉強したり、他の中学校と合同練習をしてもらって、その顧問の先生に教えていただいたりしました。

部員たちとよむ

顧問をしていると、辛いことや悔しさで涙を流すこともあります。練習試



体育館で三年生と一緒に。

合で自分の知らない戦法で攻められ、タイムアウトを取りました。肩を落としてベンチに帰ってくる彼女たちに、私は何も戦略を授けてやれないのです。自分の無知が情けなくて、また良いアドバイスもしてあげられなくて、悔しさでいっぱいでした。

もちろん、うれしいこともあります。試合に勝った時の彼女たちのキラキラした笑顔や、自分より大きな相手に必死でディフェンスをしている姿、相手チームからボールを奪い、5人で攻めてリングに入った時、ベンチの大きな声…。顧問をしていて良かったと思う瞬間です。こんな時間を、彼女たちももっと共有していきたいと思っています。これからも、何回も壁にぶつかるとは思いますが、彼女たちと一緒にバスケットを続けていきます！

れ

こ

れ

パワーの源は、子どもたちの笑顔

奈良市立富雄第三小学校・教諭

藤田 圭衣子

(平成17年3月教育学部卒)

無我夢中の一年目

一年目、初めて担任する子どもたちの前に立った時、うれしさと同時にその責任の重さをズシリと感じたことを覚えています。一年間講師をしていたとはいえ、初めての担任にどうしているのかわからないことばかりで、その日一日をこなすのに精一杯の日が続きました。そんな中でも、「学校は楽しい所だと感じて欲しい」という強い思いと、大好きな子どもたちの笑顔が私を支えていたように思います。

試練の二年目

一年目と同じ二年生の担任ということで、昨年よりは余裕を持つて子どもたちと関わる事ができるだろうと思っていました。しかし、同じ学年でも子どもが違ふと様子も全く違い、昨年以上に大変な毎日となりました。

思い通りにならないと暴れたり、教室を飛び出したり、暴言を吐いたりする子たち。目を離すとケンカが起こり、気の休まることのない日が続きました。正直「もうダメかも…」と思う日

もありました。でも、子どもたちの「先生、学校楽しい！」という言葉と笑顔に、そして同僚の先生方に支えられて頑張り続けることができました。

この二年間で学んだことは、子どもたちの力を信じる大切さです。何か起こった時、なぜそうなったのか、どうすれば良かったのかをみんな考えて続けました。その積み重ねで、お互い理解し合うことができました。トラブルも減り、何か起こっても子どもたちがうまくフォローし合える関係ができています。大変だった分、今の成長した子どもたちの姿がうれしくて仕方がない毎日です。そして、私も子どもたちにずいぶん成長させてもらいました。

これから先、どんな時でも子どもたちの力を信じて、子どもたちとともに成長していける教師でありたいと思っています。



朝の会

鳴り止まない 電話の中で

京都市児童相談所・児童福祉司
稲垣 紀夫

(平成14年3月教育学部卒)

『児童相談所の仕事』

京都市で心理職員として採用され、現在は京都市児童相談所で働いています。全国で起こっている児童虐待事件により、児童相談所が話題になることも増えました。京都市内でも、虐待の相談件数は毎年増加し続けています。児童相談所は、虐待の相談だけではなく、保護者の入院・失踪に関する養護相談、触法行為・家出・家庭内暴力に関する非行相談、児童の性格や行動に関する育成相談等を受けています。児童福祉法の下、最も適切な相談援助方法を検討して18歳未満の児童の福祉を図るとともに、その権利を保護することが私達の仕事です。

『連携の大切さ』

私は児童福祉司として、河原町通や四条通などがある中京区と、清水寺で有名な東山区の相談を担当し、さまざまな調査を行っています。仕事をすることで大切になってくるのが、学校や福祉事務所、保健所、病院、施設等の各関係機関と連携することです。児童相談所で解決できる

と期待されていても、実際にできることには限りがあり、各機関が協力し合っています。しかし、保護者や関係機関から児童相談所に求められていることに応えられず、ニーズの差や見方の違いに悩まされることが多いのも現実です。

『やりがい』

相談件数は増えていますが、職員数はまだまだ足りておらず、職員一人ひとりが膨大なケースを抱えています。途切れずに鳴り響く電話と、いつ何が起こるのかわからない緊張感の中で、力を合わせて頑張っています。困難がある仕事だからこそ、その分やりがいも大きいと思います。子どもの笑顔が見られた時は本当にうれしくて、私自身が力をもらっている瞬間です。



相談室の前で

あ

ステツプアップ を目指して

京都銀行久津川支店 溝口 万里子
(平成18年3月教育学部卒)

京都銀行で働く魅力

社会に出てから、はや二年。私は日々お客様と接する毎日を送っています。昨年の秋から、銀行の「顔」としてお客様と応対する窓口業務を担当しています。最近では、お客様が通帳やカードを紛失されたり、住所変更されたりする場合の手続き等、幅広い業務をさせていただいています。

京都銀行は、自分の意思で昇格を希望して、女性でも主任や役席として活躍できる職場なので、ステツプアップを目指して日々頑張ろうと思っています。人間として女性として、もつと成長したいというキャリアアップを実現できる場であると考えています。

大切なのは、

お客様との信頼関係

大学時代の忘れられない経験といえば、実際に生徒と触れ合った教育実習です。実習では、生徒とのコミュニケーションを図り、信頼関係を築いていくことこそ最も大切なことではないかと感じました。「目を真っ直ぐ見て話すこと」が、相手に気持ちを伝える手段だと学びました。



職場で

当時は、子どもと接する仕事に就きたいと考えていましたが、今は比較的年配のお客様とお話しする機会が多い毎日です。しかし、変わらないのは「物」ではなく「人」を相手にする仕事だということ。お客様からの「ありがとう、あなたに相談して良かった」…この言葉で、今日も一日頑張ろうと意欲が沸きます。自分にしかできない接客方法で、マイカスターを増やしていきたいと考えております。

目指すは、頼りになる

個人金融アドバイザー

今後は、お客様の資産運用のアドバイザーとして、仕事の幅をさらに広げていきたいと考えています。お客様のライフプランに合わせて、社会情勢や金融の動きなどと照らし合わせながら、ニーズに相応しい金融商品や運用プランの提案を行っていきたいと思います。京都銀行に関わる全ての方と、今後も“ながいおつき合い”ができたらなと思っています。

ひ

と